

腸 重 積

腸重積（ちょうじゅうせき）はそれほど多くはありません。しかし、とても重い病気で、できるだけ早く診断し、治療する必要があります。

赤ちゃんがとても具合悪そうにしていたり、便に多くの血液が混じるような時には腸重積も心配。ただちに受診をして下さい。



院長も実は・・・

私（院長）も腸重積にかかっています。生後8か月のころですので、もちろん記憶にはありません。診断が遅れたため、緊急の手術を受けています。当時（昭和30年代前半）の医療技術で、よく助かったものだと感心しています。

でも、もしかしたら今の自分はいなかったかも・・・と思うと、救急医療の大切さをあらためて実感します。

そして、小児科医として腸重積の見落としだけは絶対しない！と心に誓っています。



●腸重積とは

腸が自分の腸の中にめりこんでいき、つまった状態になっているものをいいます。

1歳半ぐらいまでの赤ちゃんに見られますが、とくに生後3か月～9か月が全体の半数ほどをしめています。新生児や年長児ではまれです。

また、男の子が女の子の2倍ほどいます。

●腸重積の症状

突然におきる**腹痛**のためにひどく泣いたり、少しすると和らいで泣きやんだりを繰り返します。この**強い泣き方**は「火をつけたような」という言い方がされています。そして、次第にぐったりとし、また**顔色が真っ青**になるのも特徴的です（嫌がって泣いているときには真っ赤な顔をするものですが、腸重積では、いかにも具合悪そうに白い顔をしながら泣いています）。

嘔吐することもあります。何といても決め手は**血便**です。これは腸の粘膜が傷んでくるためにおきるのですが、粘液とともにでてきて、「イチゴゼリー状」をしています。

腸重積が危険なのは、**命に関わる**ことがあるからです。発症からほぼ一日以内なら、比較的簡単に治すことができますが、それ以上時間がたつと、めりこんだ腸がダメになってきてしまいます。早く手術をして治さないと、腹膜炎をおこすなど、重大な事態も心配です。

●腸重積の治療

肛門からバリウムなどを入れて圧力をかけ、めりこんだ腸を押し戻すようにします（**整復**）。これで戻らないときや、丸一日以上過ぎていて危険なときには、外科の先生にお願いして、**手術**をしてもらいます。

（整復も万一のことを考えて、入院でき、外科の先生が立ち会える病院で行ってもらっています。）



●いつもと違うウンチなら現物を！

そんなわけで、赤ちゃん（特に男の子）、急に泣き出した、顔が悪い、便に赤いものが混じっている、などと聞くと小児科医として緊張してしまいます。

もしウンチがおかしい時には、現物をもってきて下さい。ときには、それだけで診断がつき、早く治療できることもあります。